

足元のベトナム株式市場の動き

【世界的な株安の中で、バリュエーションが魅力的なベトナム株式】

情報提供資料

作成日：2022年10月4日

ベトナムVN指数動向

基準日：2022年10月3日

足元のベトナム市場について

- ベトナム株式市場は、世界的な株安を背景に地合いが悪化し、慎重姿勢が広がりました。GDPや鉱工業生産指数など経済指標は強い内容となり、割安感による買戻しで下げ幅を縮小する場面もあったものの、10月3日のベトナムVN指数の終値は、1,086.44(9月23日比-9.7%)で引けました。
- 9月21日に米国が3回連続となる0.75%の利上げを決定し、米ドル高が進行したことから、ベトナム中銀も米ドル高・自国通貨安とインフレの進行を抑制すべく、22日には1%という大幅な政策金利の引き上げを行いました。しかしながら米ドル独歩高の流れを変えるには至っておらず、金利上昇による国内企業の借り入れコスト上昇懸念が増し、投資家心理が悪化する状況となっています。世界的に株式市場に積極的な買い手がいらない中、特に個人投資家の比率が高いベトナム市場では10月3日にマージンコールによる強制売却が発生し、下落が加速しました。
- こうした状況は、2018年の米国FF金利上昇時や2020年のコロナショック時などにも発生しました。しかし、短期間の市場変動が激しい期間を過ぎると、市場は多くの場合回復しています。そうした過去の事例が今回もあてはまるとの前提に立てば、厳しい調整局面こそファンダメンタルズが良好な企業が伸びていく機会とみています。
- ベトナム統計総局によると、2022年7～9月のGDP成長率(推定値)が前年同期比で+13.67%を記録し、新型コロナウイルス感染症の深刻な影響を受けた前年同期から2桁台のプラス成長となる見通しです。1～9月期では、前年同期比+8.83%増加し直近12年間の最高値となり、ベトナムの経済成長の勢いが加速していることを示す結果となりました。
- ベトナム統計総局は、2022年9月の鉱工業生産指数が前月比で+1.8%、前年同月比で13.0%上昇したことを発表しました。1～9月期の鉱工業生産指数は前年同期比+9.6%と高い水準で推移しており、ウィズコロナ政策への転換に伴い生産活動が復活し経済が活発になってきています。

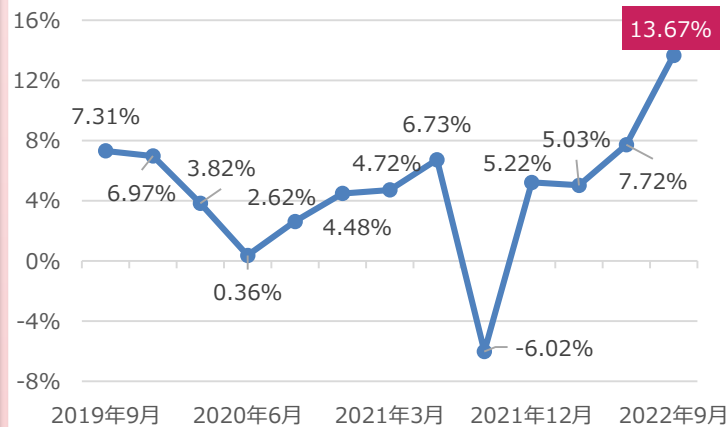
ベトナムVN指数推移

(期間：2020年12月末～2022年10月3日)



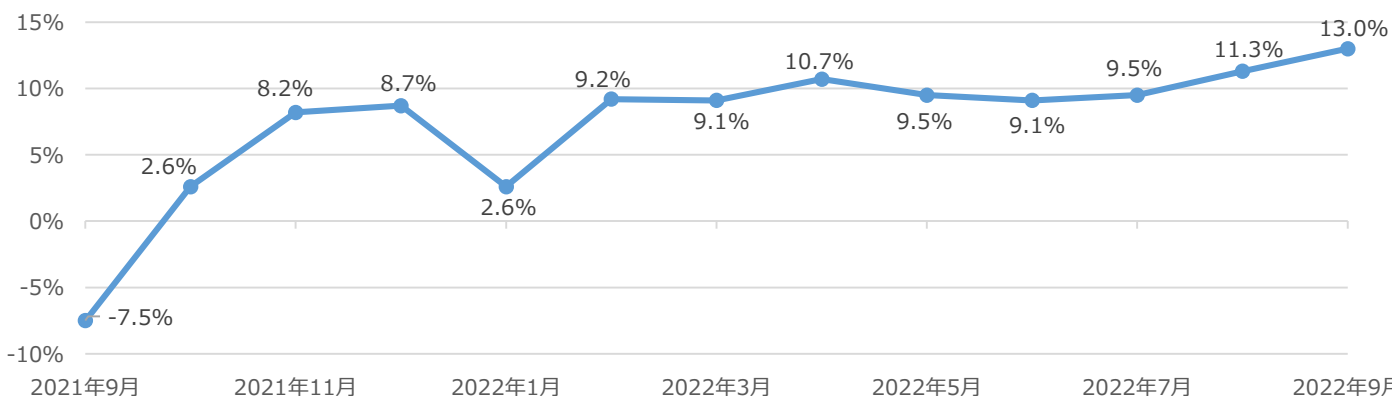
ベトナムのGDP成長率推移

(2019年7-9月期～2022年7-9月期)



ベトナムの鉱工業生産指数(前年同月比)

(期間：2021年9月～2022年9月、月次)



株価バリュエーションの割安感強まる

- 足元のPERは10.3倍と過去5年間の下限付近を推移し、平均値である15.8倍を大きく下回っています。今後、堅調な企業業績や経済成長が見込まれるため、割安感による国内外からの資金流入とともに、ベトナム株式市場は回復基調となることが期待されます。

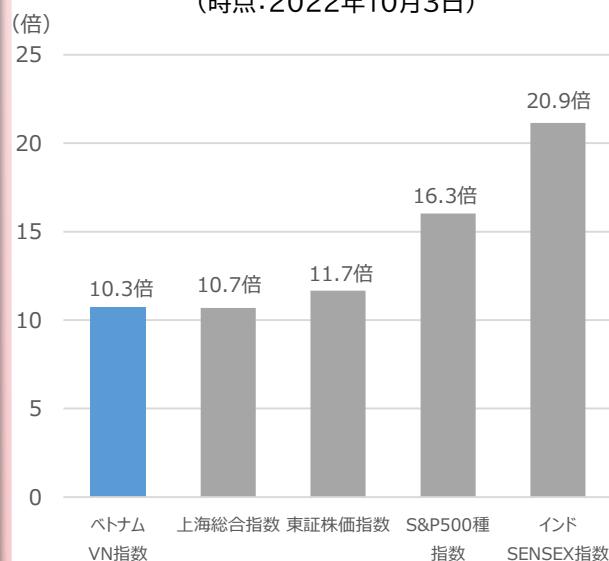
ベトナムVN指数のPER推移

(期間:2017年9月30日～2022年10月3日、日次)



ベトナムVN指数と他国の株式市場のPER比較

(時点:2022年10月3日)



出所：ブルームバーグのデータをもとに明治安田アセットマネジメント作成

<ご留意事項>

- 当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。
- 当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日時点の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。
- 投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。
- 当資料に指数・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の知的財産権・その他一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。